

製品名: G3BP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11212**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	G3BP1
別名	G3BP1; G3BP; Ras GTPase-activating protein-binding protein 1; G3BP-1; ATP-dependent DNA helicase VIII; hDH VIII; GAP SH3 domain-binding protein 1
遺伝子 ID	10146.0
SwissProt ID	Q13283
免疫原	抗血清はヒト G3BP-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 199-248

背景

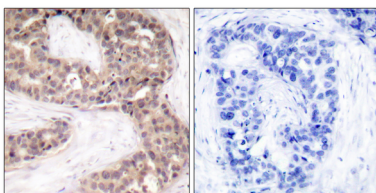
この遺伝子は、部分的に解けた 3'末端基基質を優先的に用いる DNA 巻き戻し酵素の一つをコードし、ATP 依存的に RNA/DNA およ

び RNA/RNA 二重鎖の部分的な巻き戻しも行う。この酵素は、異種核 RNA 結合タンパク質のメンバーであり、Ras シグナル伝達経路の要素でもある。Ras-GTPase 活性化タンパク質の SH3 ドメインと会合することにより、特異的に結合する。この遺伝子の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがいくつか報告されているが、これらのバリエーションの全長は未だ決定されていない。[RefSeq 提供、2008 年 7 月], 補因子: マグネシウム。ヘリカーゼ活性に必須。ドメイン: NTF2 ドメインは多量体形成を媒介する。機能: ストレス顆粒の集合を制御するエフェクターである可能性がある。in vitro におけるリン酸化依存性配列特異的エンドリボヌクレアーゼ。シトシンとアデニンの間のみを切断し、MYC mRNA を 3'-UTR で優先的に切断する。ATP およびマグネシウム依存性ヘリカーゼ。17 bp のアニール部分と、3'末端または 5'末端と 3'末端の両方にハンギングテールを持つ部分的な DNA および RNA 二重鎖を優先的にほどく。DNA/DNA、RNA/DNA、および RNA/RNA 基質を同等の効率でほどく。結合した一本鎖 DNA に沿って 5'から 3'方向に移動することで一方向に作用する。PTM: Arg-435 はジメチル化されており、おそらく非対称ジメチルアルギニンとなる。PTM: セリン残基のみがリン酸化される。静止期線維芽細胞では過リン酸化される。低リン酸化はエンドリボヌクレアーゼ活性の低下につながる(類似性による)。RASA1 依存性の Ser-149 リン酸化は、自己会合を防ぐ構造変化を引き起こします。HRAS 活性化後の脱リン酸化は、ストレス顆粒の組み立てに必要です。Ser-149 リン酸化は部分的な核局在を引き起こします。類似性: NTF2 ドメインを 1 つ含みます。類似性: RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを 1 つ含みます。細胞内局在: 増殖細胞では細胞質内に、指数関数的に増殖する細胞では細胞膜にリクルートされる可能性があります(類似性による)。休止細胞では細胞質内および部分的に核内に存在します。亜ヒ酸塩または高温処理によりストレス顆粒 (SG) にリクルートされます。SG へのリクルートは HRAS の影響を受けます。サブユニット: 増殖細胞で Ras GTPase 活性化タンパク質 (RASA1) の SH3 ドメインに結合します。静止細胞では相互作用なし。少なくとも IGF2BP1、ELAVL4、G3BP からなる TAU mRNA 複合体の構成要素(類似性による)。USP10 と相互作用し、USP10 を制御する可能性がある。ホモ二量体およびオリゴマーを形成する。組織特異性: 普遍的。

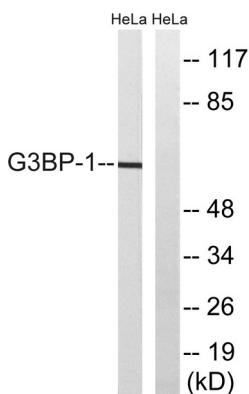
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

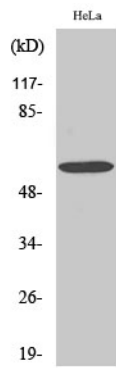
画像データ



G3BP-1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



G3BP-1 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンでは合成ペプチドでブロッキングされている。



G3BP1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析